

## 徳島文学協会 発足5周年

徳島における文学シーンに新しい風を吹き込む芸術団体となることを目指し、徳島文学協会は二〇一七年に発足した。当初三十一名だった会員数は倍以上に増え、徳島のみならず全国から賛同者が集まった。そして今年、節目の五周年を迎えることができた。

文芸雑誌『徳島文学』は協会の活動のフラッグシップ的存在となり、プロの作家とアマチュアの作品が同じ雑誌に掲載されるという、商業文芸誌と同人誌の長所を併せ持つ特徴的な文芸誌として、今年には第五号を刊することができた。

この五年間の間に徳島新聞社との共催で掌編小説コンテスト「阿波しらさぎ文学賞」が創設された。第一回目から四〇〇編を超える作品が寄せられ、第五回を迎えた今年も全国から大きな注目を集めている。

さらに近年は、四国大学とともに富士正晴高校生文

学賞や瀬戸内寂聴青春エッセイコンクールを開催するなど若い書き手の育成にも大きく貢献している。

また阿南市とともにスタートさせた北條民雄顕彰活動の一つ「民雄忌 北條民雄を偲ぶ会」は今年で四回目を迎える。

華々しい活動が目を引くが、発足当初から地道に継続してきた文学講座は、一時コロナウィルスの影響を受けて規模の縮小を余儀なくされた。しかしオンライン開催に切り替えることで全国から受講者が参加してくれるようにもなり、現在



徳島新聞「徳島文学協会5周年」紹介記事



親睦会の様子

では毎回十人以上の受講者が集い、熱い議論を交わしている。この取り組みこそ、文学賞受賞者を多数輩出している徳島文学協会の心臓部と言っても過言ではない。

六月三日の徳島新聞朝刊には、「徳島文学協会五周年」として、五年間の活動の足跡が大きく紹介された。現在もコロナの感染拡大は続いているが、徳島文学協会発足五周年と『徳島文学』第五号の発刊を記念して六月十一日には会員の親睦会がオンラインで開催された。徳島の文学シーンに新たな

な風を吹き込むことを目標として発足したわたしたちの活動によって、地域の文芸文化の様相は一変した。のみならずこの五年間で「徳島から全国に文芸文化の新たな風を発信する芸術団体」へと協会は成長したといっても過言ではない。これはひとえに会員の皆様のお力添えの賜物である。私たちはこれを誇りに思うと同時に、これからも会員の皆さんとともに更なる進化を遂げていきたいと考える。

### 2021年度 徳島文学協会会計報告 (2021年4月1日～2022年3月31日)

繰越金	1,403,495円
収入総計	1,666,655円
支出総計	-2,087,206円
差引残高	982,944円

# 第五回 阿波しらさぎ文学賞開催

徳島新聞社との共同主催にて実施している掌編小説コンクール「第五回阿波しらさぎ文学賞」の応募が六月十日に締め切られた。ご応募いただいた皆様に感謝したい。

応募作品数は四七〇点で、過去最多だった昨年に次いで二番目の多さとなった。

応募は全国四四都道府県のほか、海外からも寄せられた。徳島県内からの応募は一五二点で、東京都が七六点、神奈川県三二点、大阪府二七点と続いた。フランス、スペイン、アメリカからは四点の応募があった。

幅広い年代から応募があり、最年少は一三歳、最高齢は九六歳、平均年齢は四五・六歳だった。徳島文学協会賞の対象となる二五歳以下の作品は八二点だった。

会社員や学生らを中心に、中高校生、公務員、古書店経営者、俳優、医師、システムエンジニア、住職、映画監督など、応募者の職業も多彩である。

応募作品は、徳島文学協会の一次

選考を経て、吉村萬香さんと小山田浩子さんの芥川賞作家二人、岡本光雄徳島新聞社理事、佐々木義登徳島文学協会会長による最終選考が行われる。

受賞作は八月中旬以降に発表、表彰式とトークイベントが九月に行われる予定である。

受賞作は徳島新聞紙上と電子版、徳間書店の「読楽」、徳島文学協会の文芸誌「徳島文学」に掲載される。過去の受賞者達の活躍はめざましく、賞の知名度は年々上がっている。今回はどんな作品が受賞するのか、ぜひご注目いただきたい。



## 四国大学第一回

### 瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール開催

徳島県出身で、数多くの小説やエッセイを残した作家・瀬戸内寂聴氏の文学的功績を後世に伝えるため、四国大学「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」が創設されました。徳島文学協会はこの賞に協賛し、大賞作品を文芸雑誌「徳島文学」に掲載します。

#### ◆対象

高等学校在學生

#### ◆応募規定

- 自身の体験、意見、想い等を、個人のエッセイ作品として、自由に執筆してください。
- エッセイ作品は原稿用紙換算五枚以内で執筆してください。(A4用紙に縦書きで印字するか、市販の原稿用紙で応募いただきます)。
- 「応募用紙」をプリントアウトし、原稿の一番上に添付してください。

#### ◆募集期間

七月一日(金)～  
九月十日(土)【消印有効】

#### ◆送付先

〒七七一-一八九-一  
徳島県徳島市応神町古川  
四国大学文学部日本文学科「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」係

#### ◆審査

応募作は予備審査を経て、最終選考に残った作品について四国大学にて各賞を決定します。

#### ◆最終審査委員

阿部瞳子(四国大学文学部長)  
佐々木義登(四国大学文学部日本文学科教授)  
館健一(四国大学文学部日本文学科講師)

#### ◆賞

大賞…一作品  
優秀賞…三作品  
奨励賞…六作品

※各賞の受賞者には、四国大学分野別入試(芸術・メディア・ダンス分野)【文学部日本文学科】B区分の受験資格が与えられます。本入試を受験して入学されますと、毎年四十万円の芸術・メディア・ダンス分野特別奨学金が四年間給付されます。

※大賞は、受賞者の言葉と受賞作品を徳島文学協会発行の文芸雑誌「徳島文学」に掲載します。

詳細および応募用紙は<https://www.shikoku-u.ac.jp/docs/jyakuchoo101.pdf>





## 「エッセイ」 探しながら生きること

鉄線

二十代後半からどこか良い同人はないか、ずっと探していた。名エッセイ「手袋をさがす」のような呆れるほど融通の利かぬところや頑固なところが私にもあり、それは同人探しても發揮された。「入りたい」と思う同人がいなら無理をして入らなくてもいい。私はまもなく還暦を迎えるが、子どもの頃からのブレない頑固さのせいで得た気がしている。

当協会に入会する半年ほど前、私はある場所で佐々木代表に出会い、その人となりや文学への情熱に触れ、気が付けば入会していた。気に入った手袋が見つかった時と言うのは「買うな」と言われても既に買ってしまっている。知命を過ぎてからの私の結婚も正にそんな感じだった。それからと言うもの「徳島文学」と「とくしま文学賞」は個人的に県内二大随筆登竜門となっている。

文芸雑誌「徳島文学」はゴールデンウィークに刊行と言う印象がある。「徳島文学」と口にする、目の前に木漏れ日射す新緑の森や林がぱあーっと広がるのは私だけだろうか。ありがたいことに応募した随筆は第二号に「キウイ」、第三号に「阿波藍」、第四号に「どっちの神様」、今回の第五号には「臍落ち」

が掲載されている。徳島県内だけでなく、県外の友人や知人、親戚にも読んでいただける機会が増え、とても嬉しく感じている。

今春、第五号の刊行が遅れた。ひと月ほど（まだか、まだか）と気を揉んだ。その待ちわびようは予定日を過ぎてもなかなか来ない生理の感覚に似ており一人苦笑い。愛読者の友人たちからも催促の連絡があり、この世に現れ五年ほどの文芸雑誌であるのに半端ない存在感である。

自分の書いた作品が文芸雑誌に掲載されて本屋に並ぶ。長年机に向かって執筆している姿を目の当たりにしてきた私の母親にしてみれば、鰻重を食している時と同じくらい夢心地になったに違いない。だが、私がつらつらしている間に一番読んでもらいたかった人は活字にまるで興味がなくなってしまった。自分の随筆が載った文芸雑誌を手にするたび、言いようのない喜びと持つていき場のない切なさに包まれる。

探していた同人は見つかったが、よくよく考えてみると私は何かを探しながら生きるのを好み、ずっと探し続けているようなところがある。随筆もまたその一つかも知れない。

「とくしま文学」：古代エジプト文明の知恵の神「トート」に由来する。

## 「エッセイ」 ホップ・ステップ・ジャンプ

秋茜 幸介

私にとっての六〇代は三段跳びのホップのようなものでした。それはワクワクしながら助走して、けっこう高く跳べました。なんてったって、丸々二十四時間の全てが自由に使えるのですから、私はもう有頂天でした。いきなり自給自足の生活をやるうと言いついて、母の住む徳島に帰って、農業大学に通ったり、有機農法に挑戦したりして、いっぱいし篤農家気取りでした。

その志は天晴れでしたが、そこは付け焼刃の悲しさ、あつというまに挫折しました。とはいえその分、立ち直りも早かったのです。すると今度は、我が故郷を再発見するのだと豪語して、バイクに跨って、四方八方駆け回っていました。その後も次々と挫折と立ち直りを繰り返してきました。テニスを始めたたり、小説講座に通い出したのも、その一環でした。それが柵から牡丹餅

のようでした。それが柵から牡丹餅とでも言うのでしょうか？ なんと私は見事に当たりくじを引き当てたのです。というのも、この十年間を母子水入らずで暮らすことになった私は、それは喧嘩ばかりの毎日でしたが、それなりに親孝行の真似事が出来たのです。まさにそれは、身勝手に生きてきた私のせめてもの罪滅ぼしだったのです。お陰で私は、六〇代のホップを高

く跳ぶことが出来ました。

いよいよ私は、七〇代のステップの助走を開始しました。今の私は同じ失敗を繰り返すほど初心ではありませんが、また偶然の成功を期待するほど身の程知らずでもありません。私は少しばかり跳躍力をつけ、あの風を切って跳ぶ快感を知っているのです。何よりも七〇代は選択と集中が肝要だと思いき知らされていきます。で、ぶれないでやっていくつもりです。今ある体力の範囲内で、テニスや小説の高みを目指していけば、きっとその先に、人生最後のジャンプが待っている筈です。それまで私は焦らず急かずにやっていくだけです。

それでも、ある日突然ジャンプするように告げられたとしても、私はもう驚くことはありません。また、人生最後のジャンプを高く跳んだあと、どこに着地するのかなどと言って動揺することもありません。何故なら私は、母子水入らずで暮らした十年間のなかで、母の後姿から学んでいるのです。そうです。私はただ風を切って高く跳ぶ、あの快感を心待ちにしていればいいのです。それが母から私への最後の教えですから……。

### 事務局だより

今回から作品掲載欄が広くなりました。みなさんの作品を楽しみにしています。作品へのご感想等も事務局へ送ってくださいと嬉しく思います。今後の誌面づくりの参考にさせていただきます。

【エッセイ】

## 徳島の隣国、和歌山から

新海 大樹

徳島文学協会の会員になって三年目が近づこうとしている。ただ単に会員になっただけの期間が一年程あったが、徳島文学協会では様々な催しがオンラインで開催されているのはご存知だろうか。嗚呼、ご存知ない。それは非常に残念である。

私は和歌山に住んでいる。和歌山と徳島は海を挟んで近いように思えるが遠い。コロナ禍もあり、オンラインによるイベントも様々な団体で実施されているが、徳島文学協会も例外ではない。初心者向けからプロを目指す方向けの合評会だけではなく、おすすめの本を紹介するイベントもある。つい最近では、小説の書き方講座も開かれ、目からウロコの内容だった。

最初、オンラインのイベントに参加するのは少し戸惑っていたが、参加すると大変勉強になる。参加者の文学に対する情熱が感じられ、時には優しく、時には厳しい意見が発言される。参加して損だと思つたことはない。会員の方は、是非ともオンラインイベントに参加して、文学への熱い想いを感じて欲しい。

ある日、私は銀色のノートパソコンを開き、電源が自動で入るのを確認する。ログインしてブラウザを立ち上げ、

オンラインイベントへ参加するためのリンクをクリックする。佐々木先生をはじめ、ほとんど同じメンバーの顔ぶれが揃っている。そこに、新しい会員の顔が登場し、文学に対する情熱を既存の参加者につづけるその日を心待ちにしている。

私はまだ合評会の俎上にあげられるようなものを書いてはいないが、いつか参加者の皆さんに読んでもらえるような作品を書いて、自分の小説に対する意見を聞いてみたい気持ちはある。その作品を評価するのは、あなたかもしれない。厳しい意見を心待ちにして、作品を書き続けていきたいと心に誓う日が今日である。

今年の、阿波しらすぎ文学賞に応募された作品数は過去二番目の応募数だと聞く。それだけ徳島文学協会、文芸誌「徳島文学」が注目を集めている証拠だろう。

何度も言うが、会員になつていない方はオンラインイベントに参加しないと損である。イチ読者として会員になつたわけではあるまい。表現者になるために会員になつたのであるならば、まずは、オンラインイベントに参加すべきである。

会員は敵ではない。あなたの書く作品を高める仲間である。臆することははない、と自分にも言い聞かせておく。あなたとオンラインイベントで会える日を楽しみにしている。

【エッセイ】

## 一年間の休暇明け

秋風 涼太

昨年より執筆から遠のいていました。書齋のパソコンには山積みの郵便物。起動させてスイッチオンなんて、とてもできる気がしませんでした。

その代わり、インスタを頑張つて毎日を過ごし、動画撮影などにも取り組んでいました。それはそれで楽しかったです。

僕には文才というものがなく、どんくさい人間です。でも、三十九年も生きてきたら多少は生きるコツを身に付けることができました。

長い休暇も、その生きるコツの一つです。あえて執筆から離れて生活することで、以前より賢くなった気がします。

例えば、インスタをしていたことで新たな出会いがあり経験になりました。僕は趣味で筋トレをしているので、同じ筋トレ仲間が増えた訳です。

皆さんも、執筆に行き詰まったら休暇をとつて新しいことにチャレンジしましょう。

## 【短歌】

ミスミアヤカ

「ゆめの国などないそれは冥界」と祖母が言うのを黙つて聞く夏

中学生みたいな恋がしたかった目が合つて逸らして合わせるみたい

海と夏まんなかにいるきみの眼は世界で一番まぶしい果実

## 掲載作品募集

会員のみなさんの積極的なご応募をお待ちしています。

### ニューズレター「とと」

原稿はワード形式で事務局へお送りください。(送信時には件名に「とと掲載用」と入れてください)

- ◆ エッセイ等 千字以内
- ◆ 詩 四百字以内
- ◆ 短歌 三首以内
- ◆ 俳句 三句以内

「とと」は年二回発行ですが、一回につき掲載できるのは四作品程度です。先着順で掲載できない場合は次号に回します。

### ホームページ「作品広場」

原稿はワード形式で事務局へお送りください。小説、エッセイ、評論、児童文学、詩、俳句、短歌などオリジナルの作品に限ります。

最新掲載作品

俳句「暮の秋」 魚井遊羽

詳細はホームページで

<https://www.t-bungaku.com/plaza.html>



# 『徳島文学 Volume 6』

二〇二三年春、発行。

徳島文学協会発行の文芸誌『徳島文学 Volume 6』の原稿を募集します。

徳島文学協会では、年一回文芸誌を発行しています。芥川賞作家や直木賞作家、プロの文学者を筆者に招き、地方の文芸誌としては類を見ない商業雑誌に匹敵するクオリティの雑誌を目指します。会員の皆さまの優秀作品をプロの作家と同じ誌面に無料で掲載いたします。皆さまの傑作をお待ちしています。

## ◆応募資格

徳島文学協会会員限定

## ◆応募作品

### ■コラム

二〇文字 × 六六行（タイトル、著者名を除く）以内、テーマ不問

### ■一般文芸作品

小説・評論・随筆・詩・短歌・俳句など広義の文学作品 および書評の未発表作品

## ◆締め切り

二〇二三年一月十日（火）

コラム：徳島文学協会までメール送信  
一般文芸作品：徳島文学協会事務局まで郵送

詳細はホームページにて

<https://www.t-bungaku.com/introduction/bungaku06.pdf>



# 四国大学 第二回 富士正晴全国高校生文学賞

## ◆対象・高校生

文芸部誌に掲載された個人の小説作品。もしくは個人の小説作品を応募することも可能です。A4用紙に縦書きで印字するか、市販の原稿用紙で応募してください。

## ◆応募規定

二〇二一年十月一日以降に発行された文芸部の部誌を一枚につき一冊お送りください。

お送りいただく際には「応募用紙」に必要事項を記入の上、文芸部誌の表紙の裏に糊で貼り付けてください。

◆応募用紙は『四国大学第三回富士正晴全国高校生文学賞パンフレット』をホームページからダウンロードし、印刷してご使用ください。

◆応募いただいた文芸部誌は返却できません。

◆他の文芸賞に応募した文芸部誌でも本賞に応募可能です。

## ◆募集期間

七月十二日（火）～  
十月十日（月）【消印有効】

## ◆送付先

〒七七二-一八九二  
徳島県徳島市応神町古川  
四国大学文学部日本文学科  
「富士正晴全国高校生文学賞」係

## ◆審査

文芸部誌の小説作品および個人の応募作を対象として審査し、最終選考に残った作品について四国大学にて各賞を決定します。

## ◆最終審査員

阿部曜子  
（四国大学文学部長）  
佐々木義登  
（四国大学文学部日本文学科教授）  
館健一  
（四国大学文学部日本文学科講師）

## ◆賞

大賞：一作品  
優秀賞：二作品  
奨励賞：六作品  
佳作：十作品

※大賞・優秀賞・奨励賞の受賞者には、四国大学分野別入試（文芸部門）【文学部日本文学科】A区分の受験資格が与えられます。本入試を受験して入学されますと、毎年八十万円の特別奨学金が四年間給付されます。

※佳作の受賞者には、四国大学分野別入試（文芸部門）【文学部日本文学科】B区分の受験資格が与えられます。本入試を受験して入学されますと、毎年四十万円の特別奨学金が四年間給付されます。

※大賞は、受賞者の言葉と受賞作品を徳島文学協会発行の文芸雑誌『徳島文学』に掲載します。

## ◆審査結果

二〇二三年一月に受賞者へ通知します。

## ◆応募に関するお問合せ

四国大学文学部日本文学科  
〒七七二-一八九二  
徳島県徳島市応神町古川  
電話（〇八八）六六五九五四五  
（担当：佐々木）

## ◆主催

四国大学

## ◆協賛

徳島文学協会

パンフレットのダウンロードはこちらから

[https://www.shikoku-u.ac.jp/docs/20220712fuji\\_masaharu03.pdf](https://www.shikoku-u.ac.jp/docs/20220712fuji_masaharu03.pdf)





# 文学イベント案内

新型コロナウイルス感染症の流行に応じて、開催方法が変更になる場合がございます。  
イベントについての最新情報は、徳島文学協会ホームページをご覧ください。



徳島文学協会ホームページイベント情報

## ブラッシュアップ小説講座

小説を書いたことがない方や、初心者でアドバイスを  
受けながら小説を完成させたい方が対象です。

- 開催日 ①9月17日(土) ②12月17日(土)  
全回19時～20時
- 開催方法 『Zoom』+会場 同時開催(ハイブリッド開催)
- 場 所 徳島県立文学書道館
- 参加費 会員のみ対象  
作品提出 3,000円/参加のみ 1,500円
- 講 師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定 員 15人程度
- 締 切 開催日の10日前まで(先着順)

## 公募実践対策小説講座

全国公募の文学賞への応募を目指す方が対象の講座  
です。受講に際しては、事前に作品を読ませていた  
だき、クラス分けをさせていただく場合があります。

- 開催日 ①8月6日(土) ②10月8日(土)  
③2023年1月7日(土)  
全回19時～20時
- 開催方法 ①『Zoom』による開催  
②③『Zoom』+会場 同時開催(ハイブリッド開催)
- 場 所 徳島県立文学書道館
- 参加費 会員: 作品提出3,000円/参加のみ1,500円  
非会員: 参加のみ2,500円 ※
- 講 師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定 員 15人程度
- 締 切 開催日の10日前まで(先着順)

## 小説エキスパート講座

全国公募の文学賞で最終選考程度の実力のある方や  
プロの作家を目指す方が対象の講座です。

- 開催日 ①8月20日(土) ②11月19日(土)  
21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員: 作品提出3,000円/参加のみ1,500円  
非会員: 参加のみ2,500円 ※
- 講 師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定 員 10人程度
- 締 切 開催日の10日前まで(先着順)

### ※非会員の方のご参加について

「公募実践対策講座」「小説エキスパート講座」「はじめての哲学  
入門」は、非会員の方にもご参加いただけます。  
ご参加希望の方は事務局までメールでお申込みください。

### 【ご参加の条件】

- ①Zoomの基本的な操作ができる
- ②事前に参加費を支払う(振込手数料はご負担ください)

## 通信句会

- 開催月 10月、1月
- 参加費 会員のみ対象 1,000円
- 講 師 俳人・うっかり

※参加方法他

- ①投句3句受付(15日締切)  
当季雑詠(その季節の俳句)を事務局にメールまたはハガキで投句  
ください。(一人3句まで・未発表作品に限る・ネット掲載も不可)  
「通信句会参加希望」●会員番号●お名前●投句を記載ください。  
後日事務局より投句をとりまとめ、投句一覧を参加会員へ送付い  
たします。
- ②選句3句・選評受付(25日締切)  
投句一覧から3句を選び、選評を書いて事務局にメールまたはハガ  
キでお送りください。  
「通信句会選句」●会員番号●お名前●選句●選評を記載ください。  
後日事務局より、参加会員の選句と選評、講師の句評をまとめた  
句会報を参加会員へ送付いたします。

## 俳句講座

対面とZoom併用で句会を行います。投句は秋の句を  
2句ですが、1句でも、聴講だけでも大丈夫です。

- 開催日 11月5日(土) 19時～20時30分
- 場 所 徳島県立文学書道館
- 参加費 会員のみ対象 1,000円
- 講 師 俳人・うっかり
- 締 切 1週間前までに事務局へ投句

## はじめての哲学入門

哲学を学ぶと世界の見え方が変わります。日々の暮  
らしや物事を見つめ直すための考え方を与えてくれる  
哲学について、分かりやすくお伝えする講座です。

- 開催日 9月3日(土) 21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員・非会員※ 1,500円
- 講 師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定 員 15人程度
- 締 切 開催日の10日前まで

■講座参加費と作品提出料は、後日とりまとめの上、請求書と払込取扱  
票を年2回お送りいたします。

■Zoomでの参加方法がわからない方に、無料でサポートしています。  
お気軽にお問い合わせください。

## ご入会や講座のお申込み・お問合せは 徳島文学協会事務局まで

〒771-3201 徳島県名西郡神山町阿野字方子 103  
TEL : 080-6284-0296 society@t-bungaku.com  
<https://www.t-bungaku.com/>

### 【文学賞等に受賞された方はお知らせください】

会員の皆様のご活躍を、「とと」や徳島文学協会のホームページでご紹介します。

小説、俳句、短歌などの文学賞を受賞された方は、事務局までメールでご連絡ください。賞の目安は授賞式に出席する程度です。

ホームページには小説のみ、「とと」には全てのジャンルの受賞実績を掲載予定です。(紙面の都合上、全てを掲載できない可能性があることをご了承ください)